１　 　基俊の人物評　　　　　　　　　　　　　　　　　　　用言①　動詞

歌合ありけるに、俊頼・基俊、二人判者にて名を隠して当座に判しけるに、俊頼の歌に、

口惜しや雲井隠れに棲むたつも思ふ人にはア見えけるものを

これを基俊、鶴とＡ心得て、「田鶴は沢にこそイ棲め、雲井に住む事やはある」と難じて、負になしてける。されど俊頼、その座には詞も加へず。

その時殿下、「今夜の判の詞、各書きて、ウ参らせよ」とＢ仰せられける時、俊頼朝臣、「これ田鶴にはエあらず、竜なり。彼の某とかやが、竜を見むと思へる心ざしの深かりけるによりて、彼がためにＣ現れて見えたりし事の侍るを、よめるなり」と書きたりけり。

基俊弘才の人なれど、思ひわたりにけるにや、すべて思ひ量りもなく人の事を難ずる癖の侍りければ、あとに失の多くぞありける。

【本文チェック】

①　ア〜エの動詞の、活用の行と種類・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　　活用　　　形）　イ（　　　　　　活用　　　形）

　ウ（　　　　　　活用　　　形）　エ（　　　　　　活用　　　形）

②　Ａ〜Ｃの動詞の基本形（終止形）を、現代仮名遣いのひらがなで書きなさい。

　A〔　　　　　〕　B〔　　　　　〕　C〔　　　　　〕

③次の〔　〕に適当な語句を入れ、傍線部の現代語訳を完成させなさい。

　思い込んでしまった〔　　　　　　　　　〕

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　口惜し〔２〕　 ①（　　　　　　　）

　　　　　　　　　 ②もの足りない

２　心ざし〔６〕 　①意向

　 　　　　　　　　②（　　　　　　　）

　　　　　 　　　　③贈り物

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　薬のに御そへて参らす。（竹取物語）

ア　与える　　　　イ　参上する

ウ　差し上げる　　エ　お与えになる

（　　　）

２　絶えず言ひわたりたまへど、絶えて御返りなし。（落窪物語）

ア　通い　　イ　かけ合い

ウ　断り　　エ　続け

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の動詞の活用の行と種類、文中での活用形を答えよ。

１　極楽の迎へを得たり。（栄花物語）

活用の行と種類（　　　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

２　火消えぬれば、この女も寝ぬ。（宇治拾遺物語）

活用の行と種類（　　　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

３　右大将藤原のといふ人、いまそがりけり。（伊勢物語）

活用の行と種類（　　　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の（　）内の語を、適当な活用形にして答えよ。

１　何にかあらむ。の落として、（いぬ）物は。（うつほ物語）

（　　　　　　　）

２　我もさこそ（思ふ）。（曽我物語）

（　　　　　　　）

３　宮はた（起く）ば、かきつくろひ、せさせて遣りつ。（うつほ物語）

（　　　　　　　）

問５　次の傍線部の動詞を、終止形にして答えよ。

１　精進にて日を経るけにや。（源氏物語）

　　（　　　　　　　）

２　そのおはするところに据ゑたまへ。（和泉式部日記）

　（　　　　　　　）

３　さやうにこそ悔いたまふをりありしか。（源氏物語）

（　　　　　　　）

【探究】発展的に考えてみよう

問６　この話では基俊の思慮の浅さが指摘されている。では俊頼はどのような人物であったのだろうか。基俊が俊頼の和歌を非難した時の「その座には詞も加へず」という俊頼の態度や、その他の叙述を参考にしてまとめてみよう。

（

）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ヤ行下二段・連用　イ＝マ行四段・已然

　　ウ＝サ行下二段・命令　エ＝ラ行変格・未然

②　Ａ＝こころう　Ｂ＝おおす　Ｃ＝あらわる　　③　のだろうか

問１　１＝残念だ　２＝愛情

問２　１＝ウ　２＝エ

問３　１＝ア行下二段・連用形　２＝ヤ行下二段・連用形

　　　３＝ラ行変格・連用形

問４　１＝いぬる　２＝思へ　３＝起くれ

問５　１＝経　２＝据う　３＝悔ゆ

問６　観点　基俊の間違いに気づいていながら、そのことを黙っていた点に着目すると、その場で相手の間違いを指摘しない優しさ、相手の間違った指摘を意に介さない度量の大きさ、内心相手を下に見る傲慢さなども俊頼の性格として考えられる。

【現代語訳】

問２　１　薬が入った壺にお手紙をつけて差し上げる。

２　絶えることなく（求婚の意向を）言い続けなさるけれど、全くお返事がない。

問３　１　極楽からの迎えを得た。

２　ともし火が消えたので、この女も寝た。

３　右大将藤原の常行という人が、いらっしゃった。

問４　１　何であろうか。雀が落として、行くものは。

２　私もそう思う。

３　宮はたが起きるので、（その）髪を整え、衣装も着させて送り出した。

問５　１　精進に日を重ねたせいであろうか。

２　あなたのいらっしゃるおそばに座らせていただきたい。

３　そのように悔やみなさる折々があったか。